

土曜 ライフ・楽しむ

移住生活 成功へ二つの秘訣

わたし色

生活情報誌「悠悠と。」

編集長・真鍋康利さん



の夜間昆虫採集の催しや森林の違法伐採の被害状況の調査にも参加しています。

○○○○

今年も米どころからおいしい新米が届きました。お世話してくれたのは大阪からその町に移住して13年になるHさん。友人、知人らの希望を聞き、地元農家の方と折衝し、梱包、発送まですべての段取りをつけてくれます。私は精米機を持っていないので精米を頼みますが、慣れた方は玄米で都度精米し、一層おいしく食べているそうです。

Hさんはいろいろな職種を経験し、定年後どうするかを考えたとき、かねて登山で訪れたことのある北海道を選んで移住してきたそうです。現在は地元の皆さんと大変良好な関係を築き、山の中のログハウスで充実した暮らしを送っています。

○○○○

近年新しい世界へつながる期待からか、「移住」という言葉に魅力を感じる都会の人が増えているようです。しかもコロナ禍の今年はテレワークが普及し、在宅勤務が当たり前になった人もいます。であれば住む場所は地方や郊外でもいいじゃないか、古民家の暮らしに憧れていた、移住の受け入れに力を入れる自治体もたくさんある、などと前向きに考える人もいて、いくつか注目を集めています。

しかし、実際に都会人が田舎暮らしをするには様々な苦労や困難があります。仕事や収入のこと、家族の同意を得

られるか、住まいをどうするか、医療体制、子育てや教育、物価、交通機関などなど。北海道のような積雪地では除雪も大変な重労働で厳しいものがありますが、雪のない地域でそれを想像することは難しいでしょうね。

先駆者のHさんにお聞きすると、移住生活を成功させる秘訣の一つは地元の方たちとの信頼関係を築くことで、そのために地域活動に積極的に参加していると言います。囲碁好きの彼は地域のクラブに入り、そのつなぎりで生涯学習フェスの実行委員として協力しています。また、自然探検隊にも所属し、自宅周辺で

もう一つ大切なのは、「Yes・But法」という考え方だそうです。「相手が言ったことに対して『それは違う』と返すか『そうやね、でもこんな考え方も……』と返すかでその後の流れが大きく変わる。人を信じるのが基本で、長い付き合いをするためには多少自分を曲げてでもつながりを大事にしたい。ただし、うるさいやつと思われても肝心なことだけははっきり言う。その上で決まったことは守る」とHさん。

30年以上前の移住者の私もいま一度、「郷に入っては郷に従え」を思い返し、「住めば都」を実感したいと思えます。